

白い外壁が次第に姿を現しています
(4月上旬撮影)



完成予想図

1. 現代美術館開館まであと1年!

十和田消防署西側に建設中の、野外芸術文化ゾーン拠点施設「十和田市現代美術館」は、来年春のオープンに向けて、着々と工事を進めています。建物本体は12月頃までに完成の予定で、あわせて外構工事および内部に設置するアート作品設置工事を行います。

今年の冬にはアート作品を設置する作家が世界各地から次々と来十します。イベントとして、作家自身による作品トークや、ワークショップ(体験型講座)などを実施します。どうぞお楽しみに。詳細は「広報とわだ」でお知らせします。

野外芸術文化ゾーンピックアップ

2. 現代美術館向かいの空地整備について

敷地の現状



旧十和田税務署跡地
(約1,265㎡)



旧十和田税務署西側空き地
(約3,577㎡)

2月25日、専門家による「アート作品検討委員会」(委員長・南條史生森美術館館長)を開催し、現代美術館向かいの敷地(旧十和田税務署跡地1,265平方メートル、旧十和田税務署西側空き地3,577平方メートル)の整備

のありかたについて検討しました。

会議では、市民に活用してもらうため、敷地全体を公園的に整備すること、外構は現代美術館との関連性を考慮してデザインすること、シンボルアート作品は2点とし、ほかは外構整備の一環として、子どもが楽しめるような立体作品や庭的要素を持った作品を設置することが話し合われました。また、シンボルアート制作を依頼する作家としては、イエッペ・ハインとオラファー・エリアソン(いずれもデンマーク出身)の2人がふさわしいのではないかという意見が出されました。

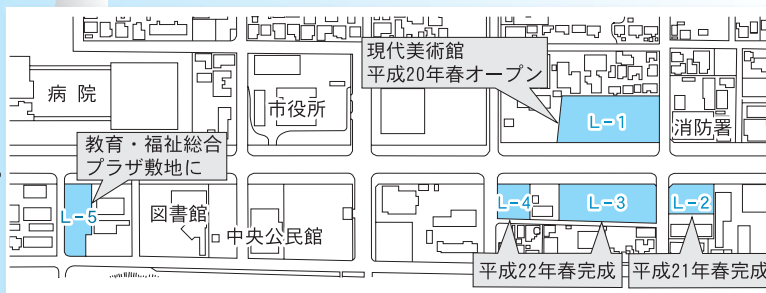
なお、設置する作品案および敷地の活用方法については、まとめ次第、市民の皆様の意見を伺います。詳細は「広報とわだ」でお知らせします。

3. 野外芸術文化ゾーン整備計画の一部を変更

3月15日付「広報とわだ」に折り込みでお伝えしたとおり、旧ハローワーク跡地が、本年1月22日の(仮称)教育・福祉総合プラザ基本計画策定市民委員会の答申などを踏まえ、同プラザの敷地の一部として利用されることになりました。これにより、同敷地に計画していた「アートガーデン」の整備を取り止めることになりました。総事業費も基本計画(平成17年3月)時の約32億円から約5億円減の約27億円となります。なお、野外芸術文化ゾーン全体のオープンは当初計画のとおり変更はありません。

現代美術館建設地向かいにある旧南部地域農業共済組合の建物については、文化ゾーンの敷地として整備するため今年度後半に取り壊す予定です。

建物に入居しているシルバー人材センターについては、勤労青少年ホーム内に、市郷土館については市民図書館2階に移転する予定です。



問い合わせ先 企画調整課 (☎③5111内線162)